



進路通信

第11号

令和 7年 3月 16日
 文責 遠藤 博文
 (進路指導 主事)

進路講話(卒年次生対象)

2月2日(日)後期 T2 において、卒年次生を対象に「これから働き始めるみなさんへ「～安心して働くための基礎知識～」と題して秋田県労働委員会事務局の 成田英明主幹 から「進路講話」をしていただきました。講話では、働くうえでの心構えや労働に関する基礎知識、困った時の相談窓口についてを厚生労働省が作成したパンフレットとパワーポイントで説明してもらいました。4月から新しい環境のもとで生活する卒業生たちにとっては、とても役立つ内容だったと思います。就職先やアルバイト先で、万が一労働トラブルに遭遇した場合は、労働委員会の相談窓口を利用するようにしましょう。



【生徒の感想】

- ・パワハラ・セクハラは誰もが被害者・加害者になる可能性があると感じ、私も働くときは気をつけようと思いました。労災等の仕組みも勉強になりました。
- ・ワークルールには働く人たちが快適に働くためのルールがたくさんあり、使用者のみならず労働者にも守らなくては行けない常識があることを知りました。何かあったら労働委員会に相談することを忘れず、自分を守る術を身に付けながら働きたいです。
- ・今回のお話はとても勉強になりました。保険や時間外労働など、自分はよく知っているとはいえなかったもので、知識を付けて働いている際に違和感があれば、公的機関を活用し、身を守るようにしたいと思いました。

進路状況

3月16日現在の卒年次生の進路状況についてお知らせします。就職は県内が16名、県外が3名の計19名が内定しました。進学は一般選抜での合格者も加わり、43名となり、就職と進学を合わせると計62名の進路が確定しています。まだ受験を控えている生徒もいますので、最終の進路確定状況は4月の進路通信でお知らせします。

	希望	決定	内定先・進学先 ()内 人数
就職	19	19	県内 株式会社 伊徳 株式会社 アキケン 株式会社 北羽新報社 医療法人正観会 御野場病院 株式会社 Nui Tec Corporation 秋田工場 由利本荘市職員 株式会社 プライムアシスタンス 株式会社 幸楽苑 株式会社 三ッ和 (2)
			株式会社 ホスピタリティオーペレーションズ トヨタカローラ秋田株式会社 秋田ステーションビル株式会社 ダイヤクラフト株式会社 秋田工場 株式会社 湯瀬ホテル 秋田県職員 株式会社 東総 株式会社 グレースロード 株式会社デュエット
進学	51	43	4年制大学 秋田大学 総合環境理工学部 日本赤十字秋田看護大学看護学部 宮城学院女子大学生活科学部 放送大学教養学部人間と文化コース
			短期大学 仙台青葉学院短期大学 歯科衛生士科 仙台青葉学院短期大学 栄養学科
			専門学校 秋田技術専門学校(4) 秋田情報ビジネス専門学校(2) 日本医歯薬専門学校 新潟コンピューター専門学校 東京デザインテクノロジーセンター専門学校 専修大学北上福祉教育専門学校 パンタクリエーターアカデミー専門学校 Wan 国際ペットワールド専門学校 東京ビューティアート専門学校 北日本ハイテクニカルクッキングカレッジ 代々木アニメーション学院 日本デザイナー専門学校 仙台医療福祉専門学校 横手市園芸振興拠点センター

◆ 合格体験記 ◆

今回の合格体験記は学校推薦で進学を決めた生徒から記載してもらいました。進路実現の参考にしてください。

〈進学〉「秋田県立大学システム科学技術学部 経営システム工学科」(学校推薦)

私は2年次の進路講話で地元秋田の若い起業家の方のお話をお聞きし、「経営学」に興味を持つようになりました。秋田県内で経営を学ぶにはどこの大学が良いかを調べた結果、国公立大の秋田県立大学が良いことがわかり、志望大学に決めました。

最大限チャンスを活かすために、推薦入試から受験をすることにしました。志望大学と受験する方法が決まり、昨年度の3月から塾に通うことにしました。塾では2次試験で受験科目となる数学と物理を受講し、その2科目を中心に勉強を進めました。また親の負担を少しでも減らすために、塾代の半分を自分のアルバイト代から出すことにしました。学校では日曜スクーリング、木曜スクーリング、特別講座に出席しました。推薦入試の前は、午前中にアルバイトを行い、午後は学校に登校して先生方から数学、理科、面接の指導を受け、夕方から夜まで塾で勉強するという生活スタイルでした。

この1年は大変でしたが、忙しい毎日を過ごす中で、充実を得ると共に自己管理能力を身に付けることができました。

最後に在校生のみなさんへアドバイスです。困ったときは遠慮せず、先生方と二人三脚で進路実現に向かって頑張ってください。

令和8年度 共通テスト説明会

2月4日(日)後期 T2 の午後3時から、65 教室において令和8年度の共通テスト説明会が開催されました。講師は本校進路指導部の藤田先生で、在校生7名が参加しました。大きく変更になる点は、出願がオンラインになることです。これまでは、高等学校の卒業見込者の出願書類は在籍校経由で大学入試センターに提出されていましたが、新年度からは志願者本人が直接センターに出願することになります。また受験票や検定料の支払いについてもオンラインになります。詳細については、新年度にお知らせします。



今年度の進路状況を振り返って

【京大取組】

県内有効求人倍率(高校新卒)は昨年度に続き高い状況にあります。本校通信制からの県内就職は厳しい状況でした。延べ30社を受験し、最終合格は17社となっています。(昨年度は延べ26社を受験し19社合格)また内定が決まってからの辞退が1件、就職関係書類を提出した後の受験辞退が1件と、今までになかった状況も発生しました。内定辞退と受験辞退に共通して見られた点は、在籍中にアルバイトやインターンシップ等の就労経験がなかったということです。内定辞退の件は内定後の研修期間に、継続して働き続けていくことができないという理由でしたし、受験辞退は、就職試験と働くことへの恐怖心からでした。本校卒業後に就職を考えている生徒は、必ず在籍中にアルバイトやインターンシップを通して、一定期間働く機会を持ち、就職試験に臨むようにしてください。

【進学】

昨年度に引き続いて国公立大学への合格者が出ました。昨年度の1名から今年度は複数名(2名)、の合格者を出すことができました。二人の共通点は、学校から配付されたレポートは余裕を持って提出し、進路志望達成に向けて地元の塾に通うかわら、月2回の「特別講座」に最後まで参加し、教員とコミュニケーションを図りながら受験に備えた点にあります。地方国公立大学は少子化の影響を受け、入りやすくなっていますが、一定の学力がなければ合格することはできません。4年制大学や短期大学を志望する生徒は、早期に受験体制を確立することが、合格への近道になることを覚えておきましょう。

次年度(令和7年度)学校推薦で進学・就職を希望する生徒へ

学校推薦で進学ならびに就職をする場合は、学校と進学先または就職先との信頼関係に基づき受験をすることになりますので、必ず「推薦会議」で認められなければ出願はできません。推薦会議では特に次の点が審議されますので、しっかり理解して学校生活を送るようにしてください。

スクーリングについて・・・定められたスクーリングに休まず出席し、学習に取り組む姿勢が良好であること。HRにも必ず参加することが必要です。

レポートについて・・・提出期限内にレポートが提出され、成績も良好であること。

学校生活において・・・生徒指導上の問題がなく、学校生活が良好であること。

